



善正寺だより

〒512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎059-331-1670
fax:059-332-0733

掲示板法話

み仏の光に照らされて

見えなかつた「お陰さま」に気づく

戦後八十年の2025年も早や、師走です。終戦から3か月足らずの頃生まれた小生も、今秋八十歳。よくぞ今まで生かされてきたことよ、と感慨ひとしおです。

生後5か月の頃、胎毒のウミが目に入り失明寸前の危機に陥り、手術の末に失明の危機から脱することができました。津の海軍病院まで門徒さんの大八車で寝具など必需品を運んでもらった入院でした。「泣いたら目がつぶれる」と医師や看護師さんから強く注意されて、母や知り合いのおばさんに文字通り24時間、不眠不休で守り続けられた末の手術だったそうです。

この度、大病院で眼の手術を受ける次第になり、長らく忘れていた大きな「お陰さま」に気づきました。

「カニを食べた カニの一生を食べてしまった カニにもうた今日の私のいのち イモを食べた イモの一生を食べてしまった イモにもうた今日の私のいのち そう思うとお念仏がこぼれてやまぬ」、これは北海道から宮城県に移り住んだ念仏者(島本邦子さん)の詩です。小樽別院のお朝事



に参る雪道を歩みながら「カニの「恩」「イモの「恩」を思い出したのだそうです。お念仏申しつつ、仏さまの智慧の光に照らし出されて、それまで見えなかつた「お陰さま」に気づいたのです。カニが成長するまでの長い命の恵みやイモが届くまでの農家の方々のご苦勞を思いやる心が育てられ、多くの命と皆様のご苦勞を知らされ、生かされて生きる身の喜びを発見されたのです。我々は、自己中心の色眼鏡で物事の狭い一面しか見えぬ凡夫のままに、怒り、腹立ち、嫉み、妬みの心渦巻き、愚痴こぼして生きている...

「弥陀成仏のこのかたは いまに十劫をへたまへり 法身の光輪きはもな く世の盲冥をてらすなり」(浄土和讃)(法蔵菩薩が修行完成し阿彌陀仏と成られて以来、十劫という長い時が経つ。弥陀の身体より放たれる光明は辺際なく届き、世の中の凡夫凡愚すべてを照らし護って下さる；意識) 凡夫の目には中々見えぬ陰の力を照らし出し、目覚めさせて下さる。だから「お陰さま」と知らされ、導かれる喜びのお念仏が我が口からこぼれ出て下さる身を喜ばせて頂きましょう。

☆行事ご案内☆

お内仏報恩講 12月6日(土)午前10時半

庫裏仏間、コーヒーと茶菓子接待、お持ち帰り弁当有
複数申込可、秋勤進で出欠と弁当数伺います
電話申込 OK、締切11月末、奮ってご参加下さい

秋勤進 11月23日(祝)午前8時より

行事、世話方、住職が手分けして巡回します
秋勤進とは初穂米の代わりの懇志、留守の方は
寺または行事様へ事前にご連絡下さい。

除夜の鐘 12月31日夜11時45分より

誰でも撞けます。ご家族揃って撞きに來て下さい。

元旦会 1月1日午前9時新年のスタートは寺で正信偈

夕方5時の鐘撞き 年中無休、子供に開放、ご褒美有

一線会テレホン法話 TEL 059-354-1454 三分法話

善正寺ホームページ各QRコードで検索、過去の寺報閲覧可、毎日更新ブログ【住職と坊守のつれづれ日記】大好評

開設17年4か月で49万訪問一日約90訪問悩み相談可

新納骨堂後継者の無い方お墓でお困りの方ご相談下さい

法事場所でお困りの方本堂使用可、日時を寺にご相談下さい

新共同墓「俱会一処」の石碑、境内建立、銘板有ご相談下さい

☆ 写真アラカルト ☆



作品展(アップリケ、俳句、写真、書道作品など28名出展)

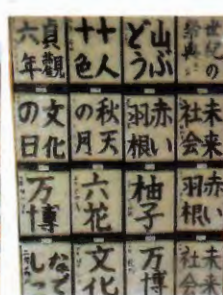
報恩講「有難いお話と沢山のお参り、感謝！」



善正寺
ホームページ



住職と坊守の
つれづれ日記



坊守スケッチ

高校の同窓会

先日、喜寿を記念した高校の同窓会がありました。場所は四日市都ホテル。卒業生七百人の内、七十数名が参加しました。古希同窓会の時に、初めて参加し、今回で二回目の参加です。

在家出身の私が、坊守として寺で五十年間過ごしてきたことを知らずに、不思議がる友人もいました。男性は社会的に活躍されている方もおられますが、大半が退職して老後の生活を楽しんでいる人が多いようです。

女性の実家に帰省する目的で参加される方もいました。ある女性は既に両親は亡くなり、実家は十年以上空き家。二人の姉妹は都会生活で、久しぶりに実家を訪れて驚きました。泥棒がガラス戸を破り、土足で侵入して、筆箒の引き出しをひっくり返し、目ぼしい物を物色していきました。「同窓会の帰省は荒れ果てた実家の整理に追われるわ。姉と空き家整理の相談がまとまらず、放置してあるわ」と嘆かれました。

世間にはよく似た事情を抱えた方も多いのではないのでしょうか？近隣の住宅地でも、かつては子育て世帯の若い夫婦が住む活気のある住宅地でしたが、両隣が空き家に囲まれた老夫婦が嘆か



れました。「いつ何時空き巣が入って、証拠隠しに火を放つか分からない。物騒な時代。早く更地にして欲しい!」

先祖代々の家でも子供世代が遠くに住み、地域の活動や檀家制度に頼る寺院活動が困難になりつつあります。

ところで26年前の名古屋の殺人事件が、先日解決しました。犯人は被害者の夫と高校時代の同窓生。加害者が一方的に好意を寄せた犯行ですが、被害者家族の無念さと失われた歳月を思うと残念でなりません。

同窓会は長い人生を歩んだ者同士が立ち止まって、お互いの人生を理解し合い、先に逝った仲間を偲び、旧交を温める場所でありたいものです。

カンパ・切手等 ありがとうございます

澤田美智江様、水谷勝子様、TS様、加藤きよ枝様、IS様、TT様、矢田様、鏡様 他 感謝します。

お知らせ

※12月6日(土)午前10時半「お内仏報恩講」お持ち帰り弁当を用意します。複数の申し込みOK。秋勧進の時出欠と弁当申し込みを伺います。締め切り11月末。電話でも申し込み可。

若坊守のいじりと日記No.131

長女(小五)の運動会は暑い時期を避け、十一月一日に開かれました。もし雨天順延になれば、翌日からの報恩講と重なるので心配でしたが、当日は暑くも寒くもなく絶好の運動会日和。そのおかげか児童の祖父母や観客が例年よりも多かったように感じました。

今年から赤組・白組に分けることや、個人走の順位をつけることを止めたそうです。その所為か特に高学年では本気で走っている子が少なかったように感じました。勝敗や順位をつけたくないというのは現代の主流になっていますが、デメリットを見せしまったようで親世代としてはモヤモヤした気持ちでした。長女は放送委員のため、六年生の団体競技のアナウンスを担当しました。ゆつくりと大きな声でとても聞きやすかったです。

組体操とダンスを組み合わせた「表現」も練習時間が短かったようですが仲間と協力する姿を見せてくれました。長女だけではなく、幼稚園の頃から知っている子達の頑張る姿も見ることができ、皆の成長を感じた一日でした。



俳壇 & 柳壇

秋の暮無人駅には客五人 釋妙水
優しさと温もり深き芋煮食む
トンネルの丸を切りとる秋の海 釋樂邦
街道の瓶に村ごと市田柿 釋樂邦
吸い込まれる空の青さよ秋の黄蝶
甘き声母呼ぶ子鳥落葉降る
通学路元気に挨拶白い息 釋住安
長き夜や一度は起きるトイレかな
銀杏散る黄のじゅうたん広がりぬ
炬燵とは無縁の母の大晦日 釋妙梅
餅網が八百屋の歳暮だった頃
日本髪結って寝ないで年を越し
櫛田は黄金色に広がりぬ 釋妙鈴
獅子舞に少女も混じり秋祭り
秋霖の夕暮れ恋し我が家の灯
秋気満つ養老山の稜線よ 釋秀龍
鮭寿司の皿は錫いろ夜の初め
ミニカーに稚児の手の跡いなし雲
菊の香や名残尽きまじ恩師の恩 釋清風
朝寒のビルの真上の日の出かな
戦後派の吾に冬立ち八十路入り
選挙では雄弁議會では寡黙
順調な人の正論鼻に付き
(い藤をか志)

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」384号をお届けします。◇暑くて長い夏の後、秋は短く冬は寒い。インフルエンザや風邪が流行、老若を問わず、心身の免疫力が低下している?◇心の免疫力をつけるには、仏法の聴聞、お念仏の生活が大切。「念仏者は無碍の一道」との宗祖の金言を胸に、よき年越しを。合掌。

今年の報恩講を終えてぼつとするのも末の間、秋勸進とお内仏報恩講の行事が続きます。「報恩講って何?」としばしば尋ねられます。浄土真宗に關係のない人にとっては無知の領域。でもキリスト教徒でもないのにクリスマスをお祝いバレンタインにはチョコを贈り、ハロウィーンには仮装する習慣が商業ベースで広まっています。報恩講を簡単に言えば、今から八百五十年前に誕生された浄土真宗の開祖、親鸞聖人を偲び、親鸞様ありがとうしと感謝する集いです。親鸞聖人のことなど知らなくても平気で生きていけると思うかもしれませんが、現代人が直面する難問を親鸞聖人の教えに照らし合わせれば、心の持ち方一つで解決の道へと導くことが案外多いものです。その為の唯一の手引きとなるのがお寺で聴聞することです。砂に海水がジワジワと浸み込むようにあなたの心に仏様の教えが伝わり、悩みが少しずつ解決します。一年に一度報恩講にお参りして「親鸞様ありがとう」と合掌しましょう。ところで今年は熊出沒の被害が全国的に広がっています。出沒件数一位は岩手県、二位は秋田県、三位は青森県と大幅に増加中。熊に限らず、わが身に迫る病氣や老いや死の危機に直面してからは手遅れです。日頃から後生の一大事を心に留めて聴聞する習慣を持ちたいものです。12月6日お内仏報恩講に揃ってお参り下さいませ。

令和七年十二月

合掌

善正寺坊守拝